

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年3月19日

事業所名 仙台市袋原たんぽぽホーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスの活動内容を考慮しながら運動できるスペース作りをしている。</li> <li>人数の多いクラスは広いスペースの部屋を使うなどして工夫している。</li> </ul>	
	②	職員の配置数は適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>欠員はあるが、登園日ごとに職員で協力し合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠員はあるが、それぞれ工夫して活動する</li> <li>クラスの児童に対し職員数は少ないと感じるが、保育内容や環境設定を工夫することでカバーする。</li> </ul>
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>ついでに、足型、スケジュールの活用等分かりやすい環境作りをしている。</li> <li>施設の環境においても活動においても分かりやすさを意識して環境作りをしている。活動や自由遊びなど、子どもの姿に合わせて空間を区切ったり、視覚的捉えやすい写真カードや手順表を使用したりしている。</li> <li>活動や自由あそびなど、子どもの姿に合わせて空間を区切ったり、写真カードや手順表を使用したりしている。利用者（児）に合わせて、日々の受け入れ時や、活動、自由遊びごとに環境設定をしている。各クラス状態像に合せた、構造化の工夫を行っている。</li> <li>クラス毎、個々に合わせた視覚的、物理的に分かりやすい環境設定を行っている。</li> </ul>	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>日々清潔に利用することを心がけ毎週末には施設全体の消毒をする等している。</li> <li>整理整頓や片づけ、消毒等、その都度とりにくんでいる。</li> <li>活動終了後に清掃を毎日行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>玩具、生活空間の消毒、安全に活動できるよう心がける。</li> <li>障害や子ども達の様子に合わせたクラス作りを行う。</li> </ul>
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス内で職員と母たちが話し合う場を設けている。</li> <li>活動、行事の都度に直接意見を聴取するよう努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者のアンケートの意見は職員も把握し、改善に努力する。</li> <li>個別に話したり毎月にクラス懇談を行い保護者と話し合う機会を設ける。</li> </ul>
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>面談技法、ケース検討、療育内容等研修の機会が多く設けられている。</li> <li>夏期活動等の時期を利用して研修を行っている。</li> <li>職員間で学んでみたいことなどを話し合い、その中から研修会や勉強会を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になることを相談することができ、それをテーマに職員が講師をし学ぶことができた。利用者や家族への支援等の取り組みをクラスでまとめ、次へ活かす。</li> <li>職員の希望している研修を受ける機会を設け、園内研修を定期的実施する。職員が交代で講師を務めながらスキルアップを図る。</li> </ul>
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズ表を作成し、児の強みとなる点等を把握しながら支援計画を作成している。</li> <li>職員間で会議や話し合いを行い作成している。</li> <li>クラス職員と心理士がそれぞれアセスメントを行い、客観的分析をするよう努めている。</li> </ul>	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>母たちがわかりやすように具体的に計画を立て、しっかりと保護者とやり取りしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が実践しやすい支援内容を提示するとともに分かりやすい文章表記に努める。</li> </ul>
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の基本的なスケジュールは固定しているが、活動内容は興味関心が持てるように工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々支援計画の内容を意識しながら業務にあたっている。個別活動の中や日々のクラス活動の中でもこの目標に合せた支援を心掛ける。</li> </ul>

適切な支援の提供	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿をクラス間で話し合い、1日の活動においてもいろいろな視点で活動内容を工夫している。</li> <li>・子どもの姿をクラス間で話し合い活動の内容や、個別の時間で子にあわせた内容を考えている。</li> <li>・ルーティンは固定化だが、その他の活動は児に応じたプログラムを考えている。</li> <li>・のびのび、わくわく等の実施、</li> <li>・個別活動や季節の活動等もとり入れている。</li> <li>・日々の基本的なスケジュールが固定しているが、活動内容は興味関心が持てるように工夫。</li> <li>・個々の子どもにあわせた活動の場をもうけている。</li> <li>・個々の特性に合わせた個別のプログラムを実施している。</li> </ul>	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の打ち合わせの時間にグループごとに行っている。</li> <li>・打合せ、反省を毎回行っている。</li> </ul>	・打ち合わせ等を大切にし、職員間の連携を徹底する。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを必ず行い、日々の療育に活かしている。</li> <li>・打合せ、反省を毎回行っている。</li> </ul>	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	・日々の記録を記入している。それを基に子どもの様子を書き出し支援計画を作成している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・計画作成の際、達成期間についても明記し、見直しを行う。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		該当なし。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	・地域相談員が中心的となって丁寧に行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	該当なし。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	該当なし。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	・移行支援シートを作成し、引き継ぎを行っている。また、施設の要望に応じ随時訪問、相談に応じている。	・卒園児の進路先との引継ぎを実施、相互理解に努める。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		該当なし。	

	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			・定期的に訪問してもらい共通理解、把握に努める。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・保護者とのやり取りは支援計画の内容も意識しながら頻繁に実施している。 ・口頭や連絡帳等で様子を伝えあっている。 ・日々の会話から保護者の想いを汲み上げ、その都度時間を設けながら面談を行っている。	
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・面談日を設けて支援計画の内容について話しをしている。	
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・保護者の様子を気につけ、意識的に声をかけ、必要であれば個別の時間をとってやりとりしている。	・面談の時間のほかに、活動の中や降園の見送り時、つとめて声を聞かせていただくよう心がける。
	③6	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・クラス職員で連絡を密にしタイムリーにお答えするようにしている。 ・個別の相談については活動終了後の時間を設けている。	・随時面談や要望に応じられるよう要望BOXを設置する。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	③9	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・地域施設と合同でイベント等の企画をしている。	
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・掲示物も使用し保護者に周知している。	
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・健康管理カードを作成している。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			

※この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。